



インドの色の祭典、Holiを学校で祝うことも

世界の貧しい人々の役に立ちたい—— 夢の実現に向かって ロンドン大学医学部に進学

経団連の奨学金を受けてUWC (ユナイテッド・ワールド・カレッジ) インド校に留学し、トップの成績で卒業。今秋からロンドン大学医学部に進学する島戸麻彩子さん。「平岡塾の学びが、私の世界を広げてくれた」と語る島戸さんに、英語専門塾「平岡塾」の魅力伺った。



ロンドン大学医学部
島戸 麻彩子 さん
(2015年7月まで平岡塾に在籍)

その日習得すべき内容を 確実に定着させる授業体制

——医師をめざそうと思われたのはいつ頃からですか。
島戸 母校の聖心女子学院には初等科で「ハイチデー」という活動があります。貧困に苦しむハイチの子どものために、お弁当をおにぎりだけにしたり、アイスを買うのを我慢して貯めた「つもり貯金」を寄付したりする活動です。小5のとき、ハイチで大地震が起こり、さらに過酷な環境になっていくことを知りました。そこで発展途上国における経済的支援の限界を悟り、貧しい人々をもっと直接的に助けられる人になりたいという思いが生まれ医師を志すようになりました。今秋からロンドン大学医学部 (University College London Medical School) に進学し、夢に向かって一歩を踏み出しますが、それを実現できたのは、平岡塾で学

んだおかげだと思っています。
——平岡塾のどのような教育が良かったのですか。
島戸 質量ともにハードな英語教育が展開されています。文法・読解・英作文の宿題が大量に課され、週1回の授業で解説が行われます。授業時間は決まっていますが、その日習得すべき内容を自分なりにクリアできたと考えたら、先生のもとに行き、マンツーマンで「勝負」します。先生から完全に理解していると認めてもらえるまで帰宅できません。学年が上がるに連れて、宿題はどんどん難しくなっていくのですが、疑問に感じたことをその日のうちに解決できることで、すっきりとして次の学習に入れました。もちろん、いったん分かったつもりでも、簡単に定着するものではありません。同じミスを繰り返さないよう、私は、間違えた問題と解答をルーズリーフに単元ごと

にまとめて、一ヶ月ほどたつて、忘



平岡塾で使用している教材。ラッセル、オーウェンなど、古典的名著の名文が中心だ

平岡塾の先生が海外進学に 迷う私の背中を押してくれた

——IBのディプロマ (世界各国の大学入学資格) を取得し、ロンドン大学医学部に進学されます。海外の医学部で学ぼうと決めた理由は何でしょうか。
島戸 先ほど申し上げたように、世界の貧しい人々の役に立ちたいという思いが強かったからです。そのためには、英語で医学の専門を学ぶことが大きな武器になると考えました。ただし、迷いがなかったわけではありませんが、UWCの国際政治の授業で、社会問題を見つけて、改善のための活動を行うという課題が出されたことがあります。私は日本の認定NPO法人「Living in Peace」で、子どもの貧困の連鎖を断つために、

たのでチャレンジし、合格することができました。
インド校には約80カ国の生徒が集まっています。寮で相部屋になったネパール、タンザニア、ノルウェーの生徒をはじめとして、世界中に友人ができたことは大きな財産になっています。授業は国際バカロレア (IB) のカリキュラムに則っており、私は母国語 (英語)、外国語 (ヒンディー語)、国際政治、生物、化学、数学 (最上級) を履修しました。当然のことながら、オールイングリッシュの授業です。一般的には、日本人の生徒は、母国語で日本語の授業を選択するケースが多いのですが、私はあえて英語を母国語とする生徒たちと同じレベルな英語の授業に挑戦することにしました。
——授業についていくのは大変だったのではないですか。
島戸 平岡塾で培った英語力は、留学先でも大いに役立つことを痛感する日々でした。たとえば、英語の最終成績を決定するテストの一つに、オーラルのテストがあります。エドガー・アラン・ポーなどの小説の一部分が出され、その内容を分析して、

児童養護施設の子どもたちを支援する活動に携わりました。そのとき、発展途上国の絶対的貧困だけでなく、日本の相対的貧困も深刻な問題だと感じ、日本の医学部に進むのも一つの方法なのではないかと思ったのです。そんな悩みを平岡塾の先生に相談したところ、「たとえ将来、日本で医師として活躍することになっても、海外の医学部で学ぶ意義は大きいし、必ず必要とされる人材になれるはずだ」と、背中を押してくださいました。その言葉に励まされ、ロンドン大学医学部を受験し、合格することができました。

最後に、医師をめざす後輩たちへのアドバイスをお願いします。
島戸 中高時代は目の前の勉強で一杯かもしれませんが、どこかで立ち止まって、自分はどういう方向に進みたいのか、見つめ直すことが大切です。その際に海外進学も含めて、できるだけ選択肢を広げてほしいと思います。英語の勉強も重要ですが、英語力を高めておけば必ず世界が広がります。



UWCの卒業式にて、お世話になった先生方と



「現代版 寺子屋」ともいえる授業スタイルと、自由かつアカデミックな校風で知られる

平岡塾で身につけた 文法力が留学先でも役立つ

——高2の夏から2年間、UWC (ユナイテッド・ワールド・カレッジ) インド校に留学されたのですか。
島戸 UWCは、世界各国から選ばれた高校生が集う国際的な民間教育機関です。日本では経団連の支援を受けており、私は全額給付奨学生として、経団連からインド校に派遣されました。狭き門の試験ですが、両親に経済的負担をかけたくなかつ